

2世帯のかたち

平屋の実家に2×4で増築

Mさん宅ー心と家計にゆとり

2世帯にするには、増築も一つの方法だ。近年、改正建築基準法の影響で増築は厳しくなっているものの、構造の選択で可能になることも。第20年のRC造の平屋の上に、2×4で増築したMさん（37）宅を訪ねた。



LDKは、木の床と漆喰の壁が温かみのある印象。奥側に設けられた大きな開口からふんだんに光が入り、明るい



寝室（写真奥）と、洋室（写真手前）。寝室はゆくゆくは子どもが転落部屋の予定だが、現在は仕切らずオープン空間に

「できれば2世帯にしたかったけど、増築は厳しいだろうと思って、いんせいでダメでもともと、広告を打てたらリフォーム会社に連絡した（笑）」
 一家は当初アパートに住んで来たが、いすれMさんの実家に戻るようになっていた。子どもの幼稚園入園前に住宅を造れたらと、候補に上がったのが増築での2世帯住宅だった。
 実家は再出ではない、

「20年のコンクリートの平屋、依頼を受けた（株）ラムハウジングでは、塊ついでに一部の図面から全体を引き直し、耐力検査、その結果、強度が十分にあるため、躯体が軽い2×4の増築を提案。1階の補強をせず上階が可能だと判明した。返済額は家賃以下、もう1つの課題が、手続だった。基準にしたのは、今まで支払っていたアパートの家賃、借り入れ後の返済額が家賃並みなら家を建てて、離しければやめよう」と決めていたんです。見積りをお願した後シミュレーションをして予算内におさまると知り、早速増築を

お願いしましたと夫人、情報を集めるうちに調製作用、決め手になった。以前から、2×4での増築を手掛けている同社、プランには「明るく風通し良く広々と」という要望を取り入れたついで、壁の上に2階の耐力壁を載せて、できた1階に負荷を掛けない工夫を施した。

様子分かり安心
 完成したのは、LDKのオープンな住まい、1階とは外階段で行き来をして、インターホンを互いの様子が見える。引越して、約半年がたち、毎朝、子どもを幼稚園まで送らせた。

「子どもも幼稚園まで送らせた。以前は両親が早く帰らなくて心配だったけど、今は子どもも自立して、今よりも安心です。」と、親しい距離で助け合える2世帯の暮らしは、みんなにいい効果をもたらしているよう。オール電化にしたことで光熱費も毎月数千円削減無理せず手に入れたマイホームで、心にも家計にもゆとりのある暮らしを楽しんでいます。

「子どもも幼稚園まで送らせた。以前は両親が早く帰らなくて心配だったけど、今は子どもも自立して、今よりも安心です。」と、親しい距離で助け合える2世帯の暮らしは、みんなにいい効果をもたらしているよう。オール電化にしたことで光熱費も毎月数千円削減無理せず手に入れたマイホームで、心にも家計にもゆとりのある暮らしを楽しんでいます。



住宅外観。増築1階は耐力壁が強く、遮断法の間接で増築が実現されている。ラムハウジングは数回土木事務所に行く。増築後の現地を調査、変更に確認され、建築の許可が下りた。

コンパクトでも広々快適！

平屋に増築する場合、広さは限られる。建坪20坪ながら、快適な空間を実現したMさん宅の工夫を紹介する。

自然素材で身体に配慮



多少費用がアップしても取り入れたのは、無垢材の床と漆喰。床は木目を生かして凹凸をつけて、自然素材の質感で「木のぬくもり、木の香りが感じられる空間」をつくり出した。

折りたたみ家具で省スペース



ダイニングの折り付けのTV台兼デスク。使わない時は折りたたむことができ、部屋を広々と使える

光と風通す格子



洋室と廊下の開口は、格子。廊下の開口から入る光や風が家中に行き渡る。木のぬくもりも柔らかい雰囲気を醸し出している